

経営効率化目標への取組みについて

弊社は、平成20年から平成22年までの3年間を対象期間とした経営効率化目標を設定し、その達成に向け鋭意取り組んでおります。この経営効率化目標は、ガス料金に関する情報公開の一環として公表しているものであり、弊社の中期経営計画に沿って設定しているものです。今般、平成21年末時点における取組み経過につきまして、次のとおりご報告させていただきます。

引き続き、お客さまへのサービスの品質向上及び信頼性向上に全力を挙げて取り組んでいく所存ですので、今後ともご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 生産性の維持・向上

目標) 生産性の維持・向上に努め、社員一人当たりの販売量を引き上げます。

経過) 大口需要の獲得等により、社員一人当たりの販売量は平成19年時点での3,761千 m^3 /年から3,969千 m^3 /年へと208千 m^3 /年増加しております。

2. 設備投資の効率的な実行

目標) 設備投資の効率的な実行に努め、平成20年から平成22年までの設備投資額を減価償却費等の内部調達資金内に抑制します。

経過) 工法改善等の効率化に努め、採算性を考慮した効果的な投資を行ったことにより、平成20年から平成21年までの設備投資額は、内部調達資金内で順調に推移しております。

3. 営業費用の増加抑制

目標) 今後もお客さま件数の増加に伴う様々な費用負担や安全対策費等の増加が見込まれますが、経営全般にわたる合理化・効率化をすすめコスト改善に努めることにより、ガスの総販売量1 m^3 当りの営業費用を抑制します。

経過) 引き続きコスト改善の努力を継続しておりますが、税制改正に伴う減価償却費の負担増や安全対策費等の増加により、ガスの総販売量1 m^3 当りの営業費は平成19年時点での8.78円に比べ8.88円と0.10円の増加となっております。

4. 保安の向上

目標) 経年本支管対策の推進及び経年内管対策を促進するとともに、安全型ガス機器の普及促進に取り組めます。また、大規模地震等の自然災害対策として、緊急遮断ブロック・供給停止方法の再構築を計画的に推進します。

経過) この2年間で、経年本支管については34,362m、経年内管については1,973件の対策を実施し、安全型ガス機器の普及促進については、安全装置付ガス機器への取替え促進に加え給排気設備の改善を行いました。更に、平成21年からは業務用厨房のCO中毒防止対策として業務用換気センサーの計画的設置の取組みを開始しました。また、緊急遮断ブロック・供給停止方法の再構築についても計画どおりすすんでおります。

5. 環境への対応

目標) 環境負荷低減に寄与する天然ガスの普及拡大に努めるとともに、高効率・省エネ型ガス機器の普及促進に努めます。

経過) 天然ガスの普及拡大については、平成19年時点での718百万 m^3 /年から750百万 m^3 /年へと32百万 m^3 /年ガス販売量が増加しました。また、高効率・省エネ型ガス機器の普及促進については、この2年間でエコジョーズとエコウィルをあわせて3,086台設置し普及促進に努めております。